

地方一次産品の輸出に関する一考察～輸出スキーム構築に向けた問題点～

A Study on Exports of Local Primary Products

～Problems for building an export scheme～

(フリガナ) 氏名	ミヤノ ユタカ 宮野 泰	ご所属	日本大学大学院 総合社会情報研究科
キーワード	一次産品、、輸出、ボトルネック		

要旨

人口の減少、景気の低迷により国内市場が縮小する中、経済連携協定の締結により市場の拡大を計っている。この中、地方の一次産品も国内消費だけでなく、輸出させることで、一次産業の活性化に繋がるとともに、ブランド力を押し上げることで、with コロナ時代のインバウンド拡大に寄与すると考えている。そこで地方創生事業の事例のなかでも、輸出を行おうとしている事例を検証し、地方産品の輸出拡大に向けた問題点を明確化する。

報告概要

日本は将来的な人口の減少、長期間の景気の低迷により国内市場が縮小する中、経済連携協定の締結により世界規模では市場の拡大を計っている。地方においては、日本人の生活様式の変化などによる消費者行動の変化により、一次産品の国内消費量が低下している産品の存在や一次産業に従事している人材の高齢化などにより、一次産業が衰退しており、加えて地方から主要都市圏への人口流出の加速も相まって地方の衰退が加速している。この中、現状に甘んじることなく地域のことを考えて試行錯誤している地域社会や地方自治体が存在する。今回の報告では、そういった地域社会や地方自治体の中でも、特に一次産品を国内消費の拡大だけでなく、輸出させることで、地域の一次産業の活性化を目論見、ブランド力を押し上げることで、with コロナ時代のインバウンド拡大に繋がようと試みている地域である真鶴町の事例を報告する。

真鶴町では、一次産品として岩地区で産出される安山岩である小松石が存在し、その中でも本小松石は皇室や徳川家などの墓石にも使用される銘柄石である。今までは、香川県の庵治石や岡山県の万成石と並び称される石であることから、高級品であり国内消費だけで産業として成り立っていた。しかしながら、国内消費量や産出量の低下、職人の高齢化などもあり、これまでの産業構造では規模を維持することが困難であるとのことから、国内消費だけでなく海外消費に目を向け輸出を行おうとしている。また、真鶴町では地方創生事業の一環として、2015年より6年の準備を行い、2021年5月より販売を開始した『鶴宝』（養殖岩ガキ）は、地域商社である株式会社岩ガキBASEが販売を担っている。2021年初年度の生産量は5万個の限定出荷であることから、地域を中心に構築してきた販売網によってその大半を消費させることができるようであるが、今後のビジネス展開を考えると2022年度からは海外市場も視野に入れた事業展開を模索している。この真鶴町の2つの地域産品の現状分析と輸出に向けた問題点を検証することで、全国的な地方産品の輸出拡大に向けた取り組みにおいて、初期段階での問題点を明確化していく。